

令和7年度 第3回 緩和ケア・在宅医療部会 研修ワーキング 議事要旨

日 時：令和7年11月19日(水)16:30~17:43

場 所：ZOOMによるWeb会議

出席者11名：安座間由美子（県立中部病院）、中川裕（豊見城中央病院）、笹良剛史（豊見城中央病院）、野里栄治（北部地区医師会病院）、吉嶺厚生（県立八重山病院）、新里誠一郎（浦添総合病院）、国吉史雄（ハートライフ病院）、久志一朗（沖縄病院）、神山佳之（南部医療センター・こども医療センター）、田場純子（沖縄県保健医療介護部健康長寿課）、増田昌人（琉大病院）

欠席者6名：中村清哉（琉大病院）、友利寛文（那覇市立病院）、新屋洋平（ゆい往診クリニック）、林正樹（中頭病院）、新里雅人（県立宮古病院）、友利健彦（沖縄赤十字病院）、

陪席者2名：屋宜孟（南部医療センター・こども医療センター）、有山葉子（琉大病院）

報告事項（上段）

1. 令和7年度第2回緩和ケア・在宅医療部会研修ワーキング議事要旨
2. 令和7年度【臨時】緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨
3. 令和7年度第2回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨
4. 令和7年度緩和ケア研修会の開催一覧について

【資料1】～【資料4】については安座間部会長より、各自で確認し不明点等あれば事務局まで連絡することとなった。

【開催報告】

5. 第1回 2025年8月30日 那覇市立病院

6. 第2回 2025年9月7日 琉球大学病院

友利委員（那覇市立病院）、中村委員（琉球大学病院）欠席につき、詳細発表は次回となった。

7. 第3回 2025年9月13日 中部病院・八重山病院（共催）

安座間部会長より、報告書に基づき説明があった。

今回、ロールプレイングで初めて看護師だけのチームを作り、看護師のシナリオで行ったグループがあった。看護師役をやることで、より現場に戻ったときに実践しやすい内容になったと思う。受講者の満足度も高かった。

8. 第4回 2025年10月4日 南部医療センター・こども医療センター

屋宜先生（南部医療センター・こども医療センター）よりご担当ということで、報告書に基づき説明があった。

今回、一グループの人数が多くなりすぎたかという反省点はあったが、全体としては特に問題なく行えた。コミュニケーションでは看護師だけのグループを作り、看護師が看護師の体験を行ってもらった。良い印象だったので、今後もその役職でコミュニケーションをやっていききたい。色々な職種で、医者の方次も色々と合わせて行っていききたい。

協議事項

1. フォローアップ研修会（仮称）の開催について

【資料 9】に基づいて以下の協議となった。

安座間部会長より、「緩和ケア研修会の修了した方で、かつ、緩和ケアに普段から専門的に関わっている方々、職種を対象として実施し、顔を合わせて、顔の見える関係を作る研修会を企画する」と説明があった。

（会議当日までに決まっていること）

- ・ 日程について

2026/1/24（土） 9:00-14:00（or 13:00）（昼食なし）

- ・ 会場について

琉球大学病院（宜野湾）敷地内

「おきなわシミュレーションセンター 1F シミュレーション室」

（未決定事項）

- ・ 外部講師について

笹良委員より【資料 9】に基づき説明があった。

亀田総合病院の関根先生、飯塚病院の柏木先生は当日別用事がありお断りとなった。

国際医療福祉大学の荻野先生と近畿呼吸器センターの松田先生へ依頼してみることとなった。

- ・ プログラム

外部講師が決まり次第考案することとなった。

【結果】

- ・ 日程について

2026/1/24（土） 12:00 もしくは 13:00-17:00（or 17:30）（昼食なし） 時間変更

理由；講師の来沖時間の都合上、変更する必要があったため

- ・ 会場について

変更なし、予約時間の延長を依頼し許可された（片付け含めて 18:00 まで）

- ・ 外部講師について

国際医療福祉大学の荻野先生、近畿呼吸器センターの松田先生どちらも受諾していただいた。

- ・ プログラムについて

12 月第一週中に案を作成し、内容をメール審議にて確定させる。

2. 次回研修ワーキングの日程について

安座間部会長より、「第 4 回は翌年 2 月頃、調整さんで日程決定」とあった。

3.その他

特になし。

報告事項（下段）

- 1.日本緩和医療学会第7回九州支部学術大会《10月19日（日）@熊本城ホール》について
笹良委員より【資料10】に基づき報告があった。

オンデマンドがなく、久しぶりに復活した感じで、いいディスカッションができていた印象を受けた。次回は来年9月に福岡で開催されることになっている。

- 2.意思決定支援に関する研修会 E-FIELD について

笹良委員より【資料11】に基づき報告があった。

粘土内のWEBでの開催が、1月25日で今回企画している研修の翌日となる。

過去に受けたことがある方も、新しいバージョンで受けるのもいいと思う。企画側から、医師の応募が少ないので、医師の皆様からも応募いただけるように周知して欲しいとのこと。

- 3.第38回日本サイコオンコロジー学会総会《10月10日（金）・11日（土）@くくる糸満》について

増田委員より【資料12】に基づき以下の報告があった。

開催前、800万円の赤字を指摘されていたが、会場へ671名の参加者と、その後のオンデマンドの228名で、最終的に数十万円ぐらゐの赤字ですみそう。皆様に多大なご迷惑とご協力をいただき、本当にありがとうございました。内容については、総合的に好評だった。会場も良かったと声があった。前回より会場が狭くなったが、異動が楽でアットホームな感じだった。また、懇親会もかなりの人数に参加していただけた。裏千家の家元が急逝で来られなくなったが、急遽代打でお願いした地元のプログラム「対馬丸記念館館長」と「遺骨収集」はとてもいい話をしていただき、とても好評だった。

笹良委員より、ギリギリまでどうなることかと思ったが、蓋を開けてみたら、非常に盛りあがってとても良かった。地元の人だけが聞くかと思っていたが、全国の人たちが聞いてくれて、やった方としても手ごたえがあった。

- 4.その他

笹良委員より、「上記サイコオンコロジー学会の翌日に実施したGRACE研究会も大盛況だった。皆さんのおかげです、ありがとうございました。」とあった。

以上

令和7年度 第3回緩和ケア・在宅医療部会 在宅ワーキング 議事要旨

日 時：令和7年11月20日（木）16:30 ～ 17:49

場 所：ZOOM（WEB 会議）

出席者：9名 高江洲あやこ（那覇市医師会）、仲門文子（沖縄県介護支援専門員協会）、東恩納貴子（那覇市立病院）、金城隆展（琉大病院）、嶺井朝美（北部地区医師会病院）、笹良剛史（豊見城中央病院）、新屋洋平（ゆい往診クリニック）、儀間真由美（在宅看護センターはなはな）、増田昌人（琉大病院）

欠席者：7名 喜納美津男（きなクリニック）、深澤裕美子（宮古病院）、長野宏昭（いきがい在宅クリニック）、嵩原まゆみ（八重山病院）、与那覇涼（株式会社けあんちゅ）、城間忍（訪問看護ステーションはえばる）、志良堂孝（宜野湾市役所）、

陪席者：2名 野里栄治（北部地区医師会病院）、有山葉子（琉大病院）

報告事項

1. 令和7年度 【臨時】緩和ケア・在宅医療部会 在宅ワーキング 議事要旨
高江洲WG長より【資料1】に基づき、報告があった。
2. 在宅ロジックモデル振り返り（確定した3件（本人・家族・連携）の中間アウトカム）
高江洲WG長より、まとめ資料（別添資料1）の提示があり、振り返りの報告があった。

協議事項

1. 得られたロジックモデルから今年度のワーキング計画をたてる について（別添資料2）
新屋委員より、当事者向けの研修会・講演会の実施が一番わかりやすい。一度大きいものを開催するというのはどうか。と意見があった。
各委員より賛同を得られたので、実施する方向となった。
増田委員より年度末も近いことから事務手続きの関係で2月末までに終わるスケジュールにしてほしいと、申し出があった。

以下、研修会・講習会について

- ・ 2月の土・日・祝日の午後2時間（14-16）ぐらいで、てだこホール同等の会場を押さえる
- ・ 今回は期日も迫っていることから会場予約優先で、講師の手配を行う
- ・ 新屋委員は、当事者向け資料を持っているので講師対応できると申し出があった
- ・ 金城委員は、ACP なら OK と申し出があった
- ・ 東恩納委員より、体験談を話せる当事者を講師にすると、話が入りやすいとあった
- ・ 離島や北部も参加しやすいよう、オンライン・オンデマンドを検討する
- ・ 本会についての詳細については、後日改めて決定とする

2. 今年度の計画を達成するためにワーキング構成員の仕事を決める
高江洲 WG 長より、講習会を踏まえて改めて決める。
3. 次回の在宅ワーキングの開催日程について(ZOOM による WEB 会議)
2 月に第 4 回在宅 WG を開催する予定となった。日程は後日調整さんで回答する。
4. その他
特になし

以上

追記；会場仮予約完了

場所；沖縄県薬剤師会館 ホール：112 人収容 (1 テーブル 2 名掛けの場合)

日時；1.2/1 (日) 13-17

2.2/11 (祝・水) 13-17

3.2/23 (祝・月) 13-17

令和7年度 第3回 緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

日 時：令和7年12月18日(木) 16:00 ～ 17:03

場 所：琉球大学病院がんセンター(ZOOM 会議)

出席者10名：野里栄治（北部地区医師会病院）、笹良剛史（豊見城中央病院）、桑江周子（県立中部病院）、砂川華（琉大病院）、友利寛文（那覇市立病院）、安座間由美子（県立中部病院）、吉嶺厚生（県立八重山病院）、田場純子（沖縄県保健医療介護部健康長寿課）、名嘉眞久美（キャンサー・グリーフおきな和）、増田昌人（琉大病院）

欠席者4名：中村清哉（琉大病院）、中島信久（琉大病院）、新里雅人（県立宮古病院）、川田聡（南部医療センター・こども医療センター）

陪席者1名：有山葉子（琉大病院）

報告事項

1. 令和7年度第1回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

各自で確認することとなった。

2. 令和7年度 緩和ケア・在宅医療部会（部会・研修WG・在宅WG）委員名簿一覧について

各自で確認することとなった。

3. 令和7年度 第3回緩和ケア在宅医療部会 在宅ワーキング 議事要旨

4. 令和7年度 第3回緩和ケア在宅医療部会 研修ワーキング 議事要旨

3.と4.について、各自で確認することとなった。

5. 令和7年度 緩和ケア研修会開催日程一覧について

那覇市立病院《第1回 8月30日(土)》

沖縄県立中部病院・沖縄県立八重山病院共催《第3回 9月13日(土)》

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター《第4回 10月4日(土)》

沖縄赤十字病院《第5回 11月16日(日)》

北部地区医師会病院《第6回 11月22日(土)》

中頭病院《第7回 11月30日(日)》

野里部会長より、「各施設で実施の緩和ケア研修会について、どの会場も滞りなく終わったことが記載されているので、各自確認願います」とあった。

6. ～10. 学会等の報告について、野里部会長より、「協議事項の後、時間があれば触れたいと思います」とあった。結果、触れることができなかったため、各自で確認することとなった。

協議事項

1. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）ロジックモデルにおける所掌分野の進捗について

2. 「痛みのスクリーニング及びモニタリング」に関するアンケート調査（たたき台）について

6. 今年度の活動計画について（ロジックモデル）

増田委員より、実施する目的について説明があった。

【実施する目的】

スクリーニングとモニタリングについて、建前上は外来患者様全員について行うこととなっているが、どこもできていなかったようなので、今どれぐらいできているのか、どれぐらいできそうか、を皆で確認し、まずはそこの評価をして我々の活動目標としていくことである。副産物として、スクリーニングをかけた後痛みがある患者について主治医チームに伝え、それを受けて薬の増減を行うことで患者にも還元となるのではないか。

- ・6 拠点病院で1ヶ月、期間を決めてやってみる。
- ・実際にできたかどうかも含めて、2月か3月ぐらいにやることを考えている。
- ・算定の要件に入っているのも本来はやっていないといけないことである。
- ・3月は集計する方の異動がありうまくいかない可能性があるのも、できれば2月に実施がありがたい。(安座間委員)
- ・統一したスクリーニングシートで一斉に実施したい。
- ・琉大病院で実際に使用しているスクリーニングシートを使用して、2月に実施する。
- ・内容が変わらなければ、やり方は各病院に合わせる。
- ・外来/入院問わず実施する。外来は「化学療法室を利用している外来患者」のみとする。
- ・がん/非がん問わず実施する。
- ・タイミングは、外来は問診時、入院はバイタルチェック時に実施する。
- ・あまりできていなかったところでも、2月にキャンペーンをはるということであればみんな頑張ると思う。(吉嶺委員)
- ・一回頑張るとその後、ゼロにはならないと思う、一回目を八割ほど頑張ると次の月は多分一気にゼロにはならないので、それを何回かやっていくとペースがあがっていくと思う。百を一気にということは難しいので、多分一・二年かけて徐々に実施率があがっていけばいいかなと思っている。(増田委員)
- ・最終的に6拠点病院が100%できることが意味のあることである。実践して最終的に100%近くになり、みんなで達成できればいいと思っている。(増田委員)
- ・次の部会(3月開催予定)で結果を出すことは難しいとは思いますが、各病院で進めていく方がいいかと思う。
- ・入院している患者でオペ待ちの患者も、毎日全員対象でしているのか。(安座間委員→砂川委員)
- ・統一でバイタル測定の一環の一つで毎日全員行っている。デメリットとして、毎日取っても何も変わらないという患者もいて、聞かれることの負担はあると思う。ただ、紙面で問診票を使い始めて良かったところは、患者自身が自己記入で答えるので、看護師がただ状況を聞くより、本人の困りごとを抽出できていることが良い点と感じている。また、紙面であることで、患者とのコミュニケーションツールとなっていることが聞き取ってそれで終わりになっておらずいいことだと思っている。(砂川委員→安座間委員)
- ・一人でも患者の悩み事を聞き取れたというのが、スタッフ自身のやりがいにも繋がっていくと思う。(砂川委員)
- ・今回は、一段階目でスクリーニングを実施する。今後、二段階目で結果を主治医チームに報告、三段階目はその結果を受けた主治医ないし主治医チームはきちんと対応する。そし

て四段階目は緩和ケアチームにコンサルテーションをする、ということで良いと思う。(増田委員)

- ・部会でこういう取組みをすることが決まって各病院お願いします、という文書作成は可能か。説得材料として、あれば有難い。(安座間委員)
- ・文章は事務局の方で用意する。各病院長宛ての文書にして、野里部会長とがんセンター長の連名で送りたいと思う。(増田委員)
- ・毎日取る事は無理です、みたいな話が出てくると思うのですが、そこは柔軟にこちらでできる形でやっていいのか。(吉嶺委員)
- ・大原則としては仰る通りでいいかと思う。お一人で説得は非常に大変だと思うので、私、お願いしに伺います。各病院事情があると思うので、私の方で院長及び看護部長または副院長にご挨拶をしに行きたいと思います。(増田委員)
- ・集計方法については、スキヤンの取り込み数にする。
- ・部会長名/がんセンター長名で、琉大病院看護部宛てにスクリーニングシートの拝借依頼のレターを作成する。(事務局対応)

3. 痛みのスクリーニングとモニタリングデータ抽出について

- (1) 琉球大学病院
- (2) 中部病院
- (3) 那覇市立病院

4. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）における在宅分野の医療者調査アンケートについて

5. 緩和ケアマップ新規掲載依頼先について

3.～5.については、各自資料を確認することとなった。

7. 次回令和7年度 第4回緩和ケア・在宅医療部会の日程について

令和8年3月頃、調整さんにて日程決定と報告があった。

6. その他

特になし

以上